（別紙４－１）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0170503437		
法人名	株式会社ケアテック		
事業所名	グループホームあかね やすらぎ館		
所在地	札幌市白石区東札幌5条4丁目１－７		
自己評価作成日	平成28年11月1日	評価結果市町村受理日	平成28年12月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503437-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東１条３丁目１番６号　旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ユニット交流と地域住民参加の場として平成27年から始めたお茶会の「あかね茶ん」。ボランティアさん同士が「ほほえみの会」を発足する機会となったり、母子を迎える場となったり、地域住民との関わりが深まっています。斜めお向えにある児童会館、「ぽんぽこ隊」が私たちに笑顔を届けてくれます。音楽ボランティア、体操ボランティア、読み聞かせボランティア、踊りボランティア、様々な地域の方々の活動が入居者の生活を豊かにしてくれています。季節を感じる行事、機能維持を意識したレクリエーションや余暇活動を重点に置き、入居者と共に一緒に楽しみ、共に生活を営む姿勢を大切にしています。入居者と職員の笑顔と笑い声が絶えないホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地下鉄東西線東札幌駅、白石駅に程近く開設12年を迎える木造2階建て（耐火建築）2ユニット（定員：18名）のグループホームです。
地域の住民と「あかね茶ん」を開催して交流の機会を設けたり、近隣の児童会館の子供たちとのふれあいや包括支援センターが実施する「キッズサポーター養成講座」に協力するなど地域との交流や事業所の持つ機能を認知症の啓発や広報に活かしている。また、地域の「白石元気サポート隊」「お元気の会」等の体操や音楽、読み聞かせ等のボランティアの協力を得て、利用者の楽しみごとや生活への支援に繋がっている。
戸外に出かける支援では、散歩や花壇の手入れ、レストランや回転寿司での外食、札幌ドームでのプロ野球観戦や競馬場見物、花見や豊平公園散策など普段では、出かけられないような場所でも出かけられるように取り組んでいる。

Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

	項　目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる（参考項目：23、24、25）	○	1　ほぼ全ての利用者の
			2　利用者の2/3くらいの
			3　利用者の1/3くらいの
			4　ほとんどつかんでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18、38）	○	1　毎日ある
			2　数日に1回程度ある
			3　たまにある
			4　ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36、37）		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
		○	3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30、31）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない

	項　目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9、10、19）		1　ほぼ全ての家族と
		○	2　家族の2/3くらいと
			3　家族の1/3くらいと
			4　ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2、20）		1　ほぼ毎日のように
		○	2　数日に1回程度
			3　たまに
			4　ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1　大いに増えている
		○	2　少しずつ増えている
			3　あまり増えていない
			4　全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11、12）		1　ほぼ全ての職員が
		○	2　職員の2/3くらいが
			3　職員の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1　ほぼ全ての家族等が
		○	2　家族等の2/3くらいが
			3　家族等の1/3くらいが
			4　ほとんどできていない

（別紙４－１）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の中で“その人らしく暮らしを営めるよう”理念の実現に取り組んでいる。 支援をする上で立ちかえるべき指針とし、共有空間に掲示している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくりあげ、カンファレンスや日常業務を通じて話し合い、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、「あかね茶ん」のお茶会を開催し、地域住民との交流を深めている。 近隣の児童会館の相互訪問や町内会の行事参加するなど地域に根ざした活動に力を入れている。	地域の住民と「あかね茶ん」を開催して交流の機会を設けたり、近隣の児童会館の子供たちとのふれあいや包括支援センターが実施する「キッズサポーター養成講座」に協力するなど地域との交流に活かしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方も参加できるよう、レクや行事「あかね茶ん」のポスターを玄関に掲示。地域ボランティアを申し出てくれる方、親子での参加も徐々に増え、認知症の人の理解を体感して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業活動の報告、利用者へのサービスの実際、暮らしぶりなどを知っていただき、頂いたご意見が「あかね茶ん」「隔月の避難訓練実施」に繋がっている。家族が出席して頂けることが今後の課題。	定期的に運営推進会議を開催して、事業所の取り組み状況や日常生活の様子、地域との交流事業や防災訓練等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括、児童会館、町内会との連携を図っている。防災関連の協力や、今後は認知症高齢者の理解を深める、こどもサポーター育成にも取り組む予定。	市や包括支援センター、社会福祉協議会や予防センター、児童会館長と協力しながら「キッズサポーター養成講座」を開催するなど協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサー機器や鈴などを利用し、行動制限や身体拘束のないケアを心がけている。 不適切な声掛けには都度指導、OJTに努めている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を身体拘束廃止や高齢者虐待防止等の内部研修や外部研修会参加で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修に参加し、知識を深める機会を職員に提供、全職員に資料を配布し虐待防止の意識を持つよう努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を必要としている入居者はいないが、家族の高齢化、関係者との交流の希薄さから、制度を活用する機会は増えると思われる。支援できるよう、制度の理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解、納得をいただけるよう説明を行い、改定等の際にも文書をお届けし同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や来訪者、入居者が投函できる「ご意見、苦情箱」を設置している。今後は家族・利用者・職員が交流できる家族会を計画し開催したい。「あかね茶ん」のお茶会へのお誘いも継続していく。	地域の住民と家族が参加する「あかね茶ん」を開催して交流の機会を設け苦情や意見等を言い表せる機会を設けて、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで職員の意見や提案を聞き、必要事項を検討、決定している。年2回個人面談を設け、職員の意向確認に努めている。	個人面談の実施やカンファレンス等で職員の意見や要望、提案を聞く機会を設け、そこでの意見やアイディア等を運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回定例の管理者会議、適時の事業所内の運営会議は環境整備、条件の整備に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修情報を提供し受講を推進している。民間の研修機会も設け、事業所が全研修の費用を支援している。新人職員への研修やフロア内でのOJTにも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修や連絡会参加の機会に同業者の繋がりが出来るよう心掛けている。区内グループホーム連絡会独自で作る空き室情報は居宅事業所や社会福祉協議会へも情報提供され、ネットワークが広がっている。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを積極的に傾聴し、受容することで信頼関係の構築に努めている。初期においてはケアプランも一か月毎の見直しをし、丁寧なモニタリングに努め、ご家族へお知らせしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に思っていることや要望等に耳を傾け、出来る限り希望に添えるよう努めている。家族への細やかな情報を提供するとともに、不安な心情の軽減になるような説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との話し合いの中から、必要としている支援が提供できるよう努めている。各種の介護サービスを含めた社会資源の情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側とされる側の関係ではなく、本人の主体性が発揮できるよう支援している。生活を共に営む視点で入居者との関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の理解と協力をいただけるよう、本人の情報をつとめて発信するようにしている。毎月発送する「あかね便り」には、個々の暮らしぶりや健康の情報を載せ写真も添えている。家族からも本人が安心して生活できるような支援をいただき、大変助けられている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩や買い物、地域の行事参加などで馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。 また、新たな馴染みの人を増やせるよう、地域に開かれたグループホームでありたいと努めている。	地域の体操や音楽、読み聞かせ等のボランティアの協力を得て、利用者の楽しみごとや生活への支援に繋がっている。 また、児童会館の子供たちとの相互訪問や地域のお祭りなどの行事参加などで馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や認知症の程度を考慮して、食席や外出の組み合わせ等を決めている。また、難聴で会話に入っていけない等で孤立してしまいがちな利用者、社交性に乏しい利用者が孤立しないよう職員がフォローし良い関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方の家族から相談があればその都度応じており、本人との関係継続に努めている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやモニタリングの機会に本人の希望、意向を汲み取るようにし、職員間で情報を共有してサービスに活かせるよう話し合っている。	センター方式を活用して暮らし方の希望や意向を把握して本人本位に検討している。また、職員間で情報を共有して、支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ず担当ケアマネ等からの情報と、家族からの情報を頂き、入居時にはある程度の把握ができているように努めている。センター方式を使って情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやカンファレンスで情報を共有し、担当者の行うモニタリング評価は全職員が周知するよう心掛けている。また有する力を把握し、個々に合った役割を担っていただいている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からの聞き取り、面会時や電話等で聞き取る家族の意向、主治医や看護師の情報、これらをカンファレンスに上げ、意見交換検討した上で介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の意見や要望、医師・看護師からの指導や助言、カンファレンスやモニタリングを通じて職員の意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録と業務日誌から、全職員が情報を共有できるようになっている。連絡ノート等のツールも利用し、情報を共有し実践していることが、介護計画の見直しにも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望にできるだけ応じるよう個別の外出にも対応している、また、連携している病院以外への受診も、ご家族やご本人の状況に応じて管理者が通院介助を行うなど柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや親子の慰問、児童会館のぽんぽこ隊には利用者の生活の質の向上や豊かな暮らしの為の協力を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及び家族にお話しし、納得の上で連携している医師がかかりつけ医になっている。かかりつけ医とは信頼関係が築けており、24時間体制で適切なアドバイスや医療を受けられている。利用者の状況によっては歯科、皮膚科の往診対応もしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診や在籍する看護師との連携、日常の健康管理や通院への支援等で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所として看護職員が確保されており、毎週看護師が訪問して健康管理や利用者の相談に応えている。また、職員は利用者の変化を見落とさずに看護師に伝えるようにしている。看護師より職員に適切な指示やアドバイスがある。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況により入院時に管理者が同行し細やかな情報を提供したり、退院後のケアについても情報やアドバイスをいただいている。かかりつけ医と病院関係者との連携が迅速で、利用者の急変に対応できている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	機会ある毎に本人や家族からの意向を伺ったり、お話する機会を設けている。延命処置、AED使用、終末期の希望等アンケートに答えていただき家族の思いを確認している。また、医療の関わりが少ない場合には、ホームでの看取りを希望する家族の思いを受け止めている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有している。また、看取りに関するアンケートを実施して、家族等の意向を把握している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防所の救急救命の研修を受け、事業所内の指導資格者からも講習を受けている。隔月で消火・避難誘導訓練を行い、近隣住民にも連絡網に加わってもらい協力をあおいでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、昼間想定と夜間想定で実施している。スプリンクラーや放置機器設備も完備し定期点検も実施している。年2回の火災避難訓練の他に隔月で避難誘導や消火訓練を自主的に行っている。水害、地震などの備えは今後充実させていく必要がある。	隔月に避難誘導や消火訓練を実施しており、年2回の昼・夜を想定した火災避難訓練や救急救命訓練の実施、火災自動通報が町内会役員に届くよう設定されていて、緊急時に地域の協力が得られる体制が整備されている。	
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさと尊厳を大切に考え、自信や張りのある生活をして頂けるような言葉かけや対応に配慮している。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけがないように内部研修会開催や月ごとのマナー目標を掲げて職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を引き出せるよう努めている。また、本人の理解力に合わせた説明を行うことで、自己決定を促しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人のペースや生活習慣、過ごし方を尊重している。自らが生活を営んでいる、という意識を持って暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方に任意している。難しい方は、その人らしいおしゃれができるよう支援を行っている。毎月の理美容の訪問は入居者の楽しみにもなっている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、盛り付け、片付けは本人の有する力に合わせて職員とともに行っている。日曜の自由メニューで利用者の希望に応える等の工夫をしている。年間で組まれる外食レクや出前はメニューの中から自ら選択し、楽しみにされている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に調理や下ごしらえ、盛り付けや後片付けをしている。また、寿司や蕎麦などの出前をとったり、レストランや回転寿司等の外食など食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、個々の不足の状態を把握している。食事量の不足やバランスが悪い時には、摂取しやすい形態にするなどして栄養バランスや脱水の予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の口腔ケア体操と食後のケアが入居者の過ごし方の一つに位置付けられている。個々の能力に応じて介助、見守り、声掛けの支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄できるように排泄パターンの把握に努め、時間を見て誘導し、排泄の自立に向けた支援を心がけている。また、歩行状態により夜間帯のみのポータブルトイレを使用するなど個々にあった排泄を考慮し支援している。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、声かけや誘導等でトイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。また、プライバシーや羞恥心に配慮した支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩などで体を動かす機会を提供し、水分摂取量も考慮しながら便秘予防に努めている。便秘症の方は乳製品を摂って頂くなどして、自然排便できるよう取り組んでいる。個々の状況によっては医師の指示を仰ぎ服薬の支援も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	本人の希望や意向、体調に沿って曜日や時間等柔軟に入浴、シャワー浴支援をしている。また、一人一人の生活習慣に応じた入浴支援をしている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴支援をしている。また、本人の希望や意向に沿って、曜日や時間等を柔軟に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファやベンチを置いて、好きな時に好きな場所でのんびりくつろげるように工夫している。また、夜間、眠りに就けない方には職員の関わりにて落ち着き安心して入眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報がすぐに確認できるようファイルし、全職員が把握できるようにしている。支援方法も利用者の状況に合わせて工夫、対応している。配薬忘れ、誤薬を防ぐよう注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった役割を無理のないようにお願いしている。毎月の風船バレー、歌体操、かるた等で張り合いや楽しみのある日々が送れ、気分転換ができるよう支援している。機能維持の為、毎日のルーティーンに組み込まれた廊下歩行、筋トレ、道具を使った運動も積極的に行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雪の時期を除き、日常的に散歩に出かけている。敷地内の畑や花壇での活動も楽しみ事となっている。家族の協力で外食や買い物に出かけられる方もいるが一部である。外出行事レクは年間計画を立てて実践している。	散歩や花壇の手入れ、レストランや回転寿司での外食、札幌ドームでのプロ野球観戦や競馬場見物、花見や豊平公園散策など普段では、出かけられないような場所でも出かけられるよう支援している。	集団での外出レクの内容もADLの違いにより年々限られてきているが家族の協力を頂いたり、ボランティアなど地域の社会資源の活用等を検討しているので、その実践に期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理にて所持している方、ホーム預りで必要時に支援させていただいている方がいる。職員と買い物に行ける機会を持ち支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じていつでも電話が出来るように支援している。手紙でのやり取りでは宛名、住所の確認の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に児童会館ぽんぽこ隊手作りのカレンダーをかけたり、レクや行事、生活の様子を切り取った写真を掲示している。温度、湿度、不快音にも気を配り、居心地よく過ごせる配慮をしている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間には児童館の子供たちが毎月掲示を変えてくれるカレンダーや季節毎の飾りつけで生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外の場所でも一人の時間を持ったり、気の合う同士で談話できるようにソファやベンチを置いてくつろげる場所を設けている。食席テーブルは社交の場であったり、作業の場であったり、遊びの場でもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、慣れ親しんだ馴染みの物を持ってきていただけるように家族にお願いしている。入居後も、本人の気に入った物を自由に飾って頂き、心地よく落ち着いて過ごせるよう工夫している。	居室には、家族と相談しながら使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれたり、家族の写真が飾られて本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ドアには個々の表札を貼り、トイレにもわかりやすい表示がある。共用部や居室ともに動きやすい家具配置や動線と手すりで、自由かつ安全に活動できるようになっている。		

（別紙４－１）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0170503437		
法人名	株式会社ケアテック		
事業所名	グループホームあかね くつろぎ館		
所在地	札幌市白石区東札幌5条4丁目１－７		
自己評価作成日	平成28年11月1日	評価結果市町村受理日	平成28年12月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503437-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東１条３丁目１番６号　旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ユニット交流と地域住民参加の場として平成27年から始めたお茶会の「あかね茶ん」。ボランティアさん同士が「ほほえみの会」を発足する機会となったり、母子を迎える場となったり、地域住民との関わりが深まっています。斜めお向えにある児童会館、「ぽんぽこ隊」が私たちに笑顔を届けてくれます。音楽ボランティア、体操ボランティア、読み聞かせボランティア、踊りボランティア、様々な地域の方々の活動が入居者の生活を豊かにしてくれています。季節を感じる行事、機能維持を意識したレクリエーションや余暇活動を重点に置き、入居者と共に一緒に楽しみ、共に生活を営む姿勢を大切にしています。入居者と職員の笑顔と笑い声が絶えないホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

	項　目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる（参考項目：23、24、25）		1　ほぼ全ての利用者の
		○	2　利用者の2/3くらいの
			3　利用者の1/3くらいの
			4　ほとんどつかんでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18、38）	○	1　毎日ある
			2　数日に1回程度ある
			3　たまにある
			4　ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36、37）		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
		○	3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30、31）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない

	項　目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9、10、19）		1　ほぼ全ての家族と
		○	2　家族の2/3くらいと
			3　家族の1/3くらいと
			4　ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2、20）		1　ほぼ毎日のように
		○	2　数日に1回程度
			3　たまに
			4　ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1　大いに増えている
		○	2　少しずつ増えている
			3　あまり増えていない
			4　全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11、12）		1　ほぼ全ての職員が
		○	2　職員の2/3くらいが
			3　職員の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1　ほぼ全ての家族等が
		○	2　家族等の2/3くらいが
			3　家族等の1/3くらいが
			4　ほとんどできていない

（別紙４－１）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の中で“その人らしく暮らしを営めるよう”理念の実現に取り組んでいる。 支援をする上で立ちかえるべき指針とし、共有空間に掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、「あかね茶ん」のお茶会を開催し、地域住民との交流を深めている。 近隣の児童会館の相互訪問や町内会の行事参加するなど地域に根ざした活動に力を入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方も参加できるよう、レクや行事「あかね茶ん」のポスターを玄関に掲示。地域ボランティアを申し出てくれる方、親子での参加も徐々に増え、認知症の人の理解を体感して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業活動の報告、利用者へのサービスの実際、暮らしぶりなどを知っていただき、頂いたご意見が「あかね茶ん」「隔月の避難訓練実施」に繋がっている。家族が出席して頂けることが今後の課題。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括、児童会館、町内会との連携を図っている。防災関連の協力や、今後は認知症高齢者の理解を深める、こどもサポーター育成にも取り組む予定。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサー機器や鈴などを利用し、行動制限や身体拘束のないケアを心がけている。 不適切な声掛けには都度指導、OJTに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修に参加し、知識を深める機会を職員に提供、全職員に資料を配布し虐待防止の意識を持つよう努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を必要としている入居者はいないが、家族の高齢化、関係者との交流の希薄さから、制度を活用する機会は増えると思われる。支援できるよう、制度の理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解、納得をいただけるよう説明を行い、改定等の際にも文書をお届けし同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や来訪者、入居者が投函できる「ご意見、苦情箱」を設置している。今後は家族・利用者・職員が交流できる家族会を計画し開催したい。「あかね茶ん」のお茶会へのお誘いも継続していく。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで職員の意見や提案を聞き、必要事項を検討、決定している。年2回個人面談を設け、職員の意向確認に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回定例の管理者会議、適時の事業所内の運営会議は環境整備、条件の整備に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修情報を提供し受講を推進している。民間の研修機会も設け、事業所が全研修の費用を支援している。新人職員への研修やフロア内でのOJTにも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修や連絡会参加の機会に同業者の繋がりが出来るよう心掛けている。区内グループホーム連絡会独自で作る空き室情報は居宅事業所や社会福祉協議会へも情報提供され、ネットワークが広がっている。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを積極的に傾聴し、受容することで信頼関係の構築に努めている。初期においてはケアプランも一か月毎の見直しをし、丁寧なモニタリングに努め、ご家族へお知らせしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に思っていることや要望等に耳を傾け、出来る限り希望に添えるよう努めている。家族への細やかな情報を提供するとともに、不安な心情の軽減になるような説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との話し合いの中から、必要としている支援が提供できるよう努めている。各種の介護サービスを含めた社会資源の情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側とされる側の関係ではなく、本人の主体性が発揮できるよう支援している。生活を共に営む視点で入居者との関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の理解と協力をいただけるよう、本人の情報をつとめて発信するようにしている。毎月発送する「あかね便り」には、個々の暮らしぶりや健康の情報を載せ写真も添えている。家族からも本人が安心して生活できるような支援をいただき、大変助けられている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩や買い物、地域の行事参加などで馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。 また、新たな馴染みの人を増やせるよう、地域に開かれたグループホームでありたいと努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や認知症の程度を考慮して、食席や外出の組み合わせ等を決めている。また、難聴で会話に入っていけない等で孤立してしまいがちな利用者、社交性に乏しい利用者が孤立しないよう職員がフォローし良い関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方の家族から相談があればその都度応じており、本人との関係継続に努めている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやモニタリングの機会に本人の希望、意向を汲み取るようにし、職員間で情報を共有してサービスに活かせるよう話し合っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ず担当ケアマネ等からの情報と、家族からの情報を頂き、入居時にはある程度の把握ができているように努めている。センター方式を使って情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやカンファレンスで情報を共有し、担当者の行うモニタリング評価は全職員が周知するよう心掛けている。また有する力を把握し、個々に合った役割を担っていただいている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からの聞き取り、面会時や電話等で聞き取る家族の意向、主治医や看護師の情報、これらをカンファレンスに上げ、意見交換検討した上で介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録と業務日誌から、全職員が情報を共有できるようになっている。連絡ノート等のツールも利用し、情報を共有し実践していることが、介護計画の見直しにも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望にできるだけ応じるよう個別の外出にも対応している、また、連携している病院以外への受診も、ご家族やご本人の状況に応じて管理者が通院介助を行うなど柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや親子の慰問、児童会館のぽんぽこ隊には利用者の生活の質の向上や豊かな暮らしの為の協力を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及び家族にお話しし、納得の上で連携している医師がかかりつけ医になっている。かかりつけ医とは信頼関係が築けており、24時間体制で適切なアドバイスや医療を受けられている。利用者の状況によっては歯科、皮膚科の往診対応もしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所として看護職員が確保されており、毎週看護師が訪問して健康管理や利用者の相談に応えている。また、職員は利用者の変化を見落とさずに看護師に伝えるようにしている。看護師より職員に適切な指示やアドバイスがある。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況により入院時に管理者が同行し細やかな情報を提供したり、退院後のケアについても情報やアドバイスをいただいている。かかりつけ医と病院関係者との連携が迅速で、利用者の急変に対応できている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	機会ある毎に本人や家族からの意向を伺ったり、お話する機会を設けている。延命処置、AED使用、終末期の希望等アンケートに答えていただき家族の思いを確認している。また、医療の関わりが少ない場合には、ホームでの看取りを希望する家族の思いを受け止めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防所の救急救命の研修を受け、事業所内の指導資格者からも講習を受けている。隔月で消火・避難誘導訓練を行い、近隣住民にも連絡網に加わってもらい協力をあおいでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、昼間想定と夜間想定で実施している。スプリンクラーや放置機器設備も完備し定期点検も実施している。年2回の火災避難訓練の他に隔月で避難誘導や消火訓練を自主的に行っている。水害、地震などの備えは今後充実させていく必要がある。		
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさと尊厳を大切に考え、自信や張りのある生活をして頂けるような言葉かけや対応に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を引き出せるよう努めている。また、本人の理解力に合わせた説明を行うことで、自己決定を促しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人のペースや生活習慣、過ごし方を尊重している。自らが生活を営んでいる、という意識を持って暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方に任意している。難しい方は、その人らしいおしゃれができるよう支援を行っている。毎月の理美容の訪問は入居者の楽しみにもなっている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、盛り付け、片付けは本人の有する力に合わせて職員とともに行っている。日曜の自由メニューで利用者の希望に応える等の工夫をしている。年間で組まれる外食レクや出前はメニューの中から自ら選択し、楽しみにされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、個々の不足の状態を把握している。食事量の不足やバランスが悪い時には、摂取しやすい形態にするなどして栄養バランスや脱水の予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の口腔ケア体操と食後のケアが入居者の過ごし方の一つに位置付けられている。個々の能力に応じて介助、見守り、声掛けの支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄できるように排泄パターンの把握に努め、時間を見て誘導し、排泄の自立に向けた支援を心がけている。また、歩行状態により夜間帯のみのポータブルトイレを使用するなど個々にあった排泄を考慮し支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩などで体を動かす機会を提供し、水分摂取量も考慮しながら便秘予防に努めている。便秘症の方は乳製品を摂って頂くなどして、自然排便できるよう取り組んでいる。個々の状況によっては医師の指示を仰ぎ服薬の支援も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	本人の希望や意向、体調に沿って曜日や時間等柔軟に入浴、シャワー浴支援をしている。また、一人一人の生活習慣に応じた入浴支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファやベンチを置いて、好きな時に好きな場所でのんびりくつろげるように工夫している。また、夜間、眠りに就けない方には職員の関わりにて落ち着き安心して入眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報がすぐに確認できるようファイルし、全職員が把握できるようにしている。支援方法も利用者の状況に合わせて工夫、対応している。配薬忘れ、誤薬を防ぐよう注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった役割を無理のないようにお願いしている。毎月の風船バレー、歌体操、かるた等で張り合いや楽しみのある日々が送れ、気分転換ができるよう支援している。機能維持の為、毎日のルーティーンに組み込まれた廊下歩行、筋トレ、道具を使った運動も積極的に行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雪の時期を除き、日常的に散歩に出かけている。敷地内の畑や花壇での活動も楽しみ事となっている。家族の協力で外食や買い物に出かけられる方もいるが一部である。外出行事レクは年間計画を立てて実践している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理にて所持している方、ホーム預りで必要時に支援させていただいている方がいる。職員と買い物に行ける機会を持ち支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じていつでも電話が出来るように支援している。手紙でのやり取りでは宛名、住所の確認の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に児童会館ぽんぽこ隊手作りのカレンダーをかけたり、レクや行事、生活の様子を切り取った写真を掲示している。温度、湿度、不快音にも気を配り、居心地よく過ごせる配慮をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外の場所でも一人の時間を持ったり、気の合う同士で談話できるようにソファやベンチを置いてくつろげる場所を設けている。食席テーブルは社交の場であったり、作業の場であったり、遊びの場でもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、慣れ親しんだ馴染みの物を持ってきていただけるように家族にお願いしている。入居後も、本人の気に入った物を自由に飾って頂き、心地よく落ち着いて過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ドアには個々の表札を貼り、トイレにもわかりやすい表示がある。共用部や居室ともに動きやすい家具配置や動線と手すりで、自由かつ安全に活動できるようになっている。		

（別紙４－２）

目標達成計画

事業所名　グループホームあかね

作成日：　平成　28 年　11　月　28　日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	19	運営推進会議にご家族の参加がなくなったことで運営に関するご意見が聞けない。 ご家族と交流する機会が少ない。	ご家族との交流を図り、共に利用者を支える関係を築く。運営推進会議に参加して頂き、意見や要望を聞く機会とする。	・年1回の家族会の開催。 ・行事、レクへの家族参加の呼びかけ。 ・参加しやすい運営推進会議の日時設定。	2年
2	49	個別の希望する外出の支援が不十分。集団での外出レクの内容もADLの違いにより年々限られてきている。	家族の協力を頂いたり、ボランティアなど地域の社会資源を活用し、利用者の生活を豊かにする。	・個々の外出ニーズを把握する。 ・個々の担当者が計画を立てる。 ・家族もお誘いし共に楽しむ機会とする。 ・集団での外出が可能になるようボランティアと連携をとる。	2年
3					
4					
5					

注1）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。
注2）項目数が足りない場合は、行を追加してください。